

HOPE plus

[市立芦屋病院だより]



事業管理者
新年あいさつ

コロナ禍をポジティブ思考に！ 市立芦屋病院 事業管理者

さじふみたか
佐治文隆



新年おめでとうございます。

2020年以来、私達日本人だけでなく全世界の人々が新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に苦しめられてきました。mRNAワクチンの早期開発や集団接種等の効果もあり、わが国においては昨年5月に感染症分類2類から5類へと変更され、経済活動も徐々にコロナ以前に回復しつつあります。当初は未知の致死性ウイルスの出現に社会は大混乱をきたし、感染者への差別や医療従事者への偏見も生み出しました。感染予防に必須の物品であるPPE(個人防護具)は備蓄が少なく、たちまち品薄になりました。さらにコロナ禍はわが国のDX(デジタルトランス・フォーメーション)の遅れを露呈させました。鳴り物入りで導入された「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」は機能不全に陥りました。医療機関で記入した患者情報を保健所や各自治体で集計、公表データを厚労省が取りまとめるというアナログ集計を、遅ればせながらデジタル化して開発した「新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(HER-SYS)」も精度管理の不備で稼働が遅れました。

今回のかつてないパンデミックの経験で、図らずもあきらかになったわが国の危機管理の不備や医療ICTの遅れを負の遺産とするのではなく、より良い医療の構築に資するよう利活用するべきです。例えば、厚労省は海外新薬を日本人の初期治験を廃止して、国内で早期承認する方向に変更し、いわゆるドラッグ・ラグをなくそうとしています。いろいろ問題のあるマイナンバー・カードですが、健康保険証や個人臨床データとの紐付けは必須と考えます。芦屋病院が先進的に導入した「電子処方箋」もお薬手帳が不要になり、重複処方や併用禁忌薬(薬の飲み合わせ)を未然に防ぐことができます。AI(人工知能)を用いた放射線科の画像診断支援、検体病理の画像診断支援などのシステムも診断精度の向上に役立つと思われます。

今年の干支は竜です。竜が水を得て昇天するように、勢いをつけて今年も病院運営に励みたいと存じます。皆様のご協力をお願いします。



タツノオトシゴ

公開講座

問合せ：芦屋市立公民館 0797-35-0700

時間 14時～15時30分 場所 芦屋市民センター401号室 参加費 1回 200円

日 程	内 容	講 師
1月13日(土)	最新の心不全の話題	市立芦屋病院 循環器内科 伊阪 大二 医師 市立芦屋病院 管理栄養士 澤田 かおる
2月10日(土)	知っておきたい目の病気	市立芦屋病院 眼科 出垣 昌子 医師
3月9日(土)	大腸がんについて	市立芦屋病院 外科 向坂 英樹 医師

※市立芦屋病院ホームページをご覧いただくか、上記の芦屋市立公民館へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

血液内科、腫瘍内科の紹介

いけだひろかず
血液・腫瘍内科 部長 池田弘和

厚生労働省の統計によると、日本人の死因は1981年以来ずっと悪性新生物(がん)が第1位を占め、2022年のデータでは第2位が心疾患、第3位が老衰、第4位が脳血管疾患でした。およそ2人に1人は一生のうち何らかのがんに罹患し、約4人に1人ががんで亡くなると推定され、その診断と治療は医療における重要な課題です。



後列 左より、前田研修医・横山研修医

前列 左より、大西副医長・西浦特任病院長・池田部長・山下主任医長

り日進月歩を遂げています。血液領域の適応症例には当院で自家末梢血幹細胞移植(自身の造血幹細胞使用)を行い、同種造血幹細胞移植(適合するドナーからの移植)が必要な場合には、大学病院やがんセンターと連携しています。学会のガイドラインに沿った標準治療(現時点で推奨される治療)を中心、患者さん・ご家族と相談しながら最も適切な治療を進めています。また血液領域では腫瘍に限らず、さまざまな貧血・血小板減少症など血液疾患全般を診療しています。

当院には放射線治療設備はありませんが、必要な時には近隣の放射線治療施設と緊密な連携を取って、治療を進めています。またがん治療と併行して院内サポートチームや緩和ケア内科と連携し、患者さん・ご家族の身体・精神・社会面など多方面の苦痛の軽減・緩和を図れるように取り組んでいます。

2023年11月現在、当院血液・腫瘍内科には4名の常勤医と2名の後期研修医が在籍しており、常勤医のうち3名が日本血液学会血液専門医(指導医2名)、2名が日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医(指導医1名)、1名が日本緩和医療学会暫定指導医の資格を有しています。



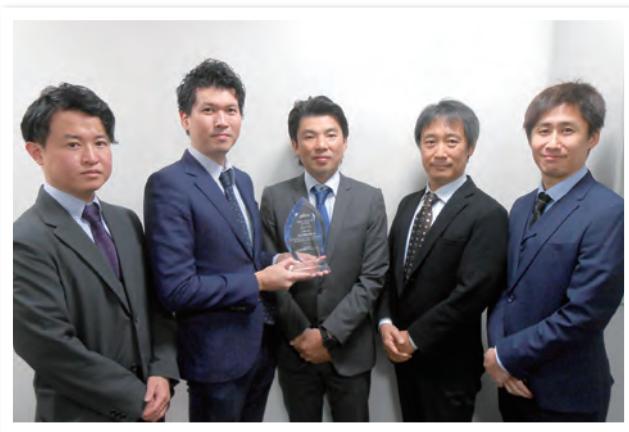
外来化学療法室

外来化学療法室は専任の薬剤師と看護師が常駐し、安全な抗がん剤の調剤や投与管理に努めています。

がんの診断は、それぞれの臓器を専門とする診療科で診察・画像検査・病理検査等により行われ、治療は進行度や患者さんの状態、意向によって選択されます。原発臓器にもありますが、病変部位が限局している場合には一般的に外科的手術療法、内視鏡治療や放射線療法が第一選択です。一方、血液のがんや病変が限局しない進行期では、全身的な薬物療法が重要になります。

当科では内科的な薬物療法により、血液内科領域では白血病・骨髄異形成症候群・多発性骨髄腫・悪性リンパ腫などの血液のがんを、腫瘍内科領域では肺癌・大腸癌・胃癌・膵癌・乳癌・卵巣癌などの固体がんを対象に、治療を行っています。がんの薬物療法は、従来の殺細胞性抗がん剤に加え、分子標的療法や免疫療法など新しい機序で働く薬剤が多数使用できるようになります。

第17回 JIIMA ベストプラクティス賞 を受賞いたしました!



医事課 左より 加藤・細見・細山課長・山下・山本

公益社団法人 日本文書情報マネジメント協会(JIIMA)より、電子処方箋の早期導入を評価され、「第17回JIIMAベストプラクティス賞」を受賞いたしました。

電子処方箋とは、紙で発行している処方箋を電子的にやり取りできるようにしたシステムです。複数の医療機関や薬局で直近に処方・調剤された情報の参照、それらを活用した他院のお薬との飲み合せチェック等ができます。

電子処方箋の導入について、国が平成29年度より進めている「データヘルス改革」の取り組みの一環として各医療機関に求めており、令和5年1月26日に本格的に運用が開始されました。

当院は、医師や薬剤師等がリアルタイムに処方情報を共有することにより重複処方の回避、また、将来的には患者さんへ紙の処方箋の受け渡しが不要になる等、メリットが大きいと考え、運用開始時点から導入することといたしました。なお、当初からの参加病院(国のモデル事業以外)は当院のみです。他の医療機関、薬局等について、電子処方箋の導入がされているかご確認の上、是非、ご活用ください。

電子処方箋について、ご不明な点がございましたら、お気軽に医事課までお尋ねください。



当院はマイナンバーカードを健康保険証として利用できます。

市立芦屋病院 無料Wi-Fiサービス



当院を利用される方の利便性向上のため、全棟において**無料Wi-Fiサービス**をご利用いただけます。詳しくは病院ホームページまたは院内掲示にてご確認ください。

ねっと版糖尿病教室のお知らせ

閲覧自由

現在集合型糖尿病教室開催は中止しております。

そこで、糖尿病療養について

【ねっと版糖尿病教室】として情報発信をしております。
www.ashiya-hosp.com/kyoushitsu/tounyou.html



QRコードは
こちらです

当院ホームページから連携医療機関のホームページへアクセスができます!!



QRコードは
こちらです

パソコン、携帯電話
タブレットなどから
ご利用ください



[連携医療機関URLホームページ]
<https://www.ashiya-hosp.com/gairai/iryoukikan.html>

事業管理者のつぶやき

市立芦屋病院 事業管理者 佐治文隆

龍宮

今年の干支は辰で、実在しない架空の動物の龍(竜)であらわされます。龍は古来中国で権力の象徴とされ崇められています。そのルーツはインド仏教における蛇神ナーガが中国に伝えられ、龍あるいは龍王と訳されたと思われ、海中や水中の龍宮に住んでいるといわれました。中国では仙人たちが暮らす理想郷は海の果てにあると想像されていたことから、海中の竜宮城を訪ねる浦島太郎伝説は、中国の民話などを下地に日本化されたものと思われます。類似の物語は日本各地に存在し、いずれも恩返しに宝物をもらうパターンが多く見られます。

「龍宮」を「リュウグウ」と書くと小惑星になります。2014年に地球を飛び立った小惑星探査機「はやぶさ2」は2018年に目的地「リュウグウ」に到達、2回にわたりサンプル採取に成功し、2020年に帰還してサンプルを入れたカプセルを投下後、新たな小惑星に向かうミッションに旅立ちました。多くの日本人が固唾をのんで見守り、その快挙に感動したのはまだ記憶に新しいところです。2015年、それまで公式には小惑星番号「162173」と呼ばれていた「リュウグウ」は、小惑星センターから「Ryugu」の正式名称を与えられています。これに先立ちJAXA(宇宙航空研究開発機構)が名称一般公募を行い、浦島太郎の物語で玉手箱を持ち帰るストーリーが「はやぶさ2」がサンプル入りカプセルを持ち帰るプロジェクトと重なることや、この小天体に水を含む岩石があると期待されていて、水を思わせる名称であることなどから「リュウグウ」を選定したといいます。「リュウグウ」の地形にも、「リュウジン尾根」や「オトヒメ岩塊」など浦島太郎にちなんだ命名がいくつかみられます。

「リュウグウ」で採取されたサンプルは国際研究チームで分析途上のことですが、これまでに水、アミノ酸、希ガス、炭酸水など種々の物質とそれらの起源を示す情報が見つかっています。今後多数の小惑星のサンプル解析が行われると、レアメタルなど貴重な資源が発見できるかも知れま



せん。アメリカの宇宙資源開発ベンチャーの中には、こうした小惑星を地球近傍まで輸送して資源を採掘する、いわば「小惑星丸ごとお持ち帰り計画」を立てている企業もあるそうです(光文社新書「宇宙ベンチャーの時代 経営の視点で読む宇宙開発」小松伸多佳・後藤大亮著)。同書によれば、さまざまな小惑星の価格を公表しているアステランク(Asterank)社から、リュウグウは828億ドル(1ドル140円換算で約12兆円)と評価されています。興味があればサイトを覗いてみてください。

月の土地もまた売りに出されています。ルナ・エンバシー社が1エーカー(約4,000平米)を1万円以下で売っています。創業者が「月は誰のものか?」の疑問を持ち、法律を徹底的に研究した挙げ句、宇宙に関する法律は1967年に発効した宇宙条約しかないことを突き止めました。この条約では国家の所有は禁止していても、個人の所有には触れられないことから、所有権の申し立てを行い受理されました。まさに法の盲点についてビジネスにしたわけです。月の土地の売買は少しいかがわしい気もしますが、世界では今や多数の企業が宇宙ビジネスに取り組んでいます。ヴァービン・エラーのリチャード・ブランソン氏、アマゾンのジョフ・ベゾス氏、テスラのイーロン・マスク氏といった億万長者がいずれも民間宇宙旅行ビジネスに参入しています。また自身も自社の機体で、短時間とはいえど宇宙旅行を体験した大金持ちも含まれます。

ハードだけではありません。何千個もの人工衛星が地球を周回し、それぞれがデータを送ってくることから、その膨大なデータを活用するソフトもまたビジネスにつながります。ウクライナ戦争の戦況がリアルタイムで知らされ、石油や株価に影響を与えるのを目の当たりに見てきました。農作物の作付けや収穫状況の観測は商品市況を左右できます。軍事、民事にかかわらず、宇宙ビジネスは今後も発展し続けるでしょう。人類の叡智がこれを平和利用に活用することを望みます。

(2024. 1. 1)

事業管理者のつぶやきについてはホームページにも連載しておりますのでぜひご覧下さい。

市立芦屋病院 ご案内



●●●交通案内●●●

JR 芦屋駅、
阪急芦屋川駅から

- タクシー 約7分
- バス 約25分
JR芦屋駅、阪急芦屋川駅 のりば2番
- 徒歩 約30分

※ 病院ネットワークバスもご利用ください 無料

市立芦屋病院の理念

病院理念

あい(愛)・しあわせ(幸福)・やさしさ(優しさ)

基本理念

芦屋市の中核病院として 地域社会に貢献します
患者の意思を尊重し 最善の医療と癒しを提供します



日本医療機能評価機構 認定施設(3rd G : Ver. 2.0 一般病院2)

市立芦屋病院

〒659-8502 芦屋市朝日ヶ丘町39-1

TEL:0797-31-2156 FAX:0797-22-8822

ホームページ <http://www.ashiya-hosp.com>